

第 2 回 藤沢市立学校通学区域見直し【北部】ワークショップ 開催結果について

- ・開催日時:2024 年9月 27 日(金)午後1時~午後3時
- ・開催場所:湘南台市民センター 地下1階ホール
- ・ファシリテーター:徳田 太郎氏(NPO 法人日本ファシリテーション協会 フェロー)
- ・ワークショップ参加者:11 人 見学者:2 人 運営スタッフ:14 人 合計 27 人

○当日配付資料

- ・別添のとおり

議事要旨

1. 開会

- ・「子どもの学びで大切にしたいこと」を見直す。
前回のワークショップの成果物を見ながらグループで話し合い、必要に応じて要素を追加した。
- ・「学校規模・通学距離等の観点で懸念されること」を見直す。
前回のワークショップの成果物を見ながらグループで話し合い、必要に応じて要素を追加した。
- ・「区域見直しのポイント」を考える。
グループで話し合い、特に重要な追加ポイントを抽出した。
- ・「区域見直しのポイント」に重みづけを行う。
抽出された特に重要な追加ポイントに、全員で投票を行った。
各人「3 点」「2 点」「1 点」の持ち点で投票した結果は、別紙 2 のとおり。

2. 「区域見直し案」の作成方法を知る。

資料に沿って事務局から説明。

質疑

(質問)資料 P.5 第 1 期実施計画における推計の計算イメージの表の数字は、教室の数か。

(回答)学級数である。今後、このような場合はわかりやすいように、「学級数」と表示するようにしたい。

(質問) 赤ちゃんの数(生まれていない子)はどのように想定しているのか。合計特殊出生率の推移などから考えているのか。

(回答) 第1期実施計画における2040年時点での学級数については、藤沢市企画政策課が国勢調査結果に基づいて行った将来人口推計に基づいて推計している。その将来人口推計においては合計特殊出生率や大きな開発の情報を含んでいる。

また、今回の通学区域の見直しにあたっては、2024年に住民基本台帳に記載がある子どもの数を第1期実施計画における2040年時点の推計値で割り戻して、0.8とか1.5などとしている。そのため広い意味では、藤沢市将来人口推計に基づいており、合計特殊出生率や大開発の状況などを見込んでいると考えていただきたい。

(質問) P.8増減率を一人ひとりに割り当てたイメージにおいて、1.5のC小学校と0.8のB小学校の境界線を変えるということか。そうした場合、1.2のA小学校に合わせて、0.8のB小学校と1.5のC小学校の境界線を変えるのか、あるいは全部を1.2にするために境界を変えて0.8のB小学校のところにも1.2の児童が入って来るような動かし方をするのか。

(回答) 例えばA小学校の区域にある1.2とカウントされる2人の場所をB小学校の区域に変更した場合、その2人は2.4人としてカウントされる。現時点では同じ1人でも住んでいる場所によって0.8人だったり1.2人になると考えていろいろな案をつくっていく。

(質問) 統計上の問題で「人」で表していると思うが、それが湘南台地区と六会地区と長後地区の自治会でずれるように我々は考えたいのだが、資料の説明で人が動くのはわかるが、行政区域で考えた場合についてはこれから先に考えていくということでしょうか。

(回答) これらについては、実際に人が住んでいる場所を地図上に落とすイメージで考えている。自治会を尊重するという考えがあるが、自治会を分断せずに学区を変更した場合にいい結果になるかはわからない。自治会を分断しないと調整ができないといったことも考えられるので、あくまでも地図上で、住んでいる場所を基準に考えていくことになる。

(質問) そもそも話だが、先ほどまで幹線道路を超えないなど、子どもたちの安全を優先して、学区を考えると思っているが、教育委員会のデータだとあくまでも人数を調整するために、適正にするために境界線を考えると言っているのに、同じ自治会や生活圏の学校に行きたいのに、人数のために自治会を分断することもあるということがわかったがそれでいいのか。2040年までに新しい校舎が建てられればそれで解決するのではないか。なんのための学区の見直しなのかがわからなくなった。

(回答) 基本的には過大規模校がなくなり、学校間の格差を解消するための検討をしている。新たな通学区域の境界線を引くことになった時に何を重視して線を引くかを話し合っている。

次回ワークショップで、事務局から通学区域の見直し案を出す。これは過大規模校をなくすことを目的としている。学校を大きく造れば過大規模が解決するというものではない。自治会や安全を基に区切るのではなく通学区域の見直しの目的は過大規模校をなくすことであり、自治会の単位を尊重したり、安全を確保するためだけに見直しをするわけではない。線を引くときは意見を最大限尊重し、すべての条件を満たせないときの優先順位を決めて、いくつかの案を出し、その案だと適正規模校になるが、安全ではないのではないかと。みなさんの意見を聞くという流れになる。

3. 第3回ワークショップのお知らせ

事務局から第3回【北部】ワークショップの日程について、2024年12月24日(火)午後1時から湘南台市民センター地下1階ホールで開催する旨を説明。
また、開催日数日前に改めて事務局から出欠の連絡をする旨を説明。

以上